

大／阪／の／建／築／まちあるき——「東大阪」

ずしだにふくげんすいしゃ 辻子谷復元水車



直径6mの復元水車



旧水車工場の遺構



旧水車工場の遺構



1/4 模型による再現



復元水車

所在地： 東大阪市上石切町辻子谷
最寄駅： 近鉄奈良線石切駅下車徒歩10分
見学： 自由

生駒山西側山腹、音川沿いに位置する辻子谷では、江戸時代より豊富な水と斜面を利用した水車工場が多数存在した。その水車動力を利用し、胡粉・葉種などの製粉が盛んに行われおり、特に熱を嫌う漢方薬の製粉では、水車の動力は好んで利用されたようだ。

残念ながら現在、現役で稼働する水車はないが、かつて盛んであった水車技術を後世に伝えるために地元有志の間で水車復元の機運が高まり、平成16年11月に直径6mの水車が辻子谷上流に復元され、平成19年11月には水車工場の1/4模型も完成し、水車工場の構造や製粉製造の様子が見学できるようになった。

木々の緑と空の青を背景に、水流を受けて回転し続ける水車の勇姿は上品で美しく、加えて落水が奏でる自然のメロディが我々の耳を存分に楽しませてくれる。近くに現存する旧水車工場には、実際に使われていた回転軸や唐臼が当時のまま遺されており、復元水車と併せて見学すると、かつての水車工場の様子を想像することができる。

水車の材料としては松の木が適しており、乾くと収縮により水車が傷むのが早まるため、その動力を利用しない時でも水車を常に回転させ続け、負荷のかかる軸には油を差すのが日課だったようだ。

戦後の山林伐採による水量減少と電力普及により今やその地位を完全に奪われてしまったが、環境破壊が問題になっている昨今、もう一度こうした自然力の再利用を考えるべき時期にあるのではないかと。 (仙入 洋)